

東京都水道局は、多摩川の安定した河川流量の確保と小河内貯水池（奥多摩湖）の保全を図るため、多摩川上流域の東京都と山梨県に広がる 約25,000ha の森林を水道水源林として管理している。

将来にわたって適切な水源地の保全を行っていくため、都民、企業などの多様な主体と連携した森づくりを進めている。

## ■水源林における主な取組

### 【水道水源林の保全管理】

- 水源かん養などの機能を十分に発揮させるため、人工林の間伐や枝打などの手入れを実施



間伐作業



枝打作業

### 【民有林の購入と再生】

- 所有者が手放す意向のある民有林を購入し、水道水源林として育成、管理
- 小河内貯水池への影響が懸念される民有林を積極的に購入



購入直後



整備後(間伐、歩道)

## ■企業等と連携した森づくりの主な取組

### 東京水道～企業の森(ネーミングライツ)



- 水道水源林の一部に、ネーミングライツを設定
- 企業が協定エリアで森林保全作業等を実施

金額 … 年間50万円 / ha

面積 … 2～3 ha / 区画

期間 … 3年間

協定企業 … 12社

(令和5年4月1日現在)

### 企業協賛金制度



- 企業からの協賛金を、水源林の保全育成等に活用
- 水道局HPで、協賛企業名を公表

金額 … 1口10万円

期間 … 1年間

協賛企業 … 14社

(令和5年4月1日現在)

### ■関連URL

<https://www.mizufuru.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/>

### ■担当部署

部署名: 東京都水道局浄水部浄水課

連絡先: 03-5320-6447 minnanomori@waterworks.metro.tokyo.jp

# 仙台市の取組(青下の杜プロジェクト)

仙台市の大切な水道水源のひとつである「青下水源地」の周辺には、豊かな水源涵養林が広がり、きれいでおいしい水を生み出すうえで重要な役割を担っています。  
「青下の杜プロジェクト」は、こうした美しく豊かな水源地を未来につなげるために、仙台市と民間企業が連携して取り組む、官民連携の水源保全プロジェクトです。

## ■取組概要

### ①水源涵養林保全育成

本市が協力企業からの寄付金を活用し、青下ダム周辺および青下ダム上流部の市有水源涵養林の保全育成等を行う。

### ②森林保全作業体験

本市と協力企業が連携しながら、水道記念館に隣接する活動エリアで森林保全作業体験を行う。

### ③周知・啓発活動

本市と協力企業が連携し、水道記念館などで本事業の取り組みを紹介し、水源保全に関する周知・啓発活動を行う。



企業と連携した森林保全作業の様子

## ■連携イメージ



活動状況をYouTubeで紹介中



## ■関連URL

[http://www.suido-city-sendai-jp/nx\\_html/03-suishitsu/03-107.html](http://www.suido-city-sendai-jp/nx_html/03-suishitsu/03-107.html)

## ■担当部署

部署名：仙台市水道局総務部営業課  
連絡先：022-304-0017

# 愛知県岡崎市の取組(公民連携による水道水源保全)

生活に欠かせない水道水を未来にわたり安定して供給するためには、水源涵養機能を有した水道水源林の保全に努めることは重要なことである。一方、水道事業に携わる企業においても自らの事業継続には「水」は必須であり、水源保全に対するCSR活動の意欲が高まりを見せている。そこで12の水道事業関連企業と公民連携し、水道水源林の育成、管理を行う活動やその大切さを伝える啓発活動を「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」と名付け取り組むこととした。

## ■取組概要

### <未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト>

#### ・12の水道事業関連企業との連携

令和2年9月28日に岡崎市の水道水源の保全に向けた事業連携に関する協定を締結した。

協定期間は3年間で、3年ごとに協定を締結しプロジェクトを継続していく予定をしている。

協定参加者からの寄付金や運営支援によって水道水源保全事業を実施する。

水道水源保全事業は協定参加者によって活動内容を決定し、職員・社員・市民が参加する。

各社が行っているCSR活動と岡崎市の水道水源保全活動を結集することで、スケールメリットを活かしたより効果的な事業を実現できる。

#### ・これまでの取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により、活動規模を協定参加者のみに縮小し実施した。

間伐体験会 7者 11名

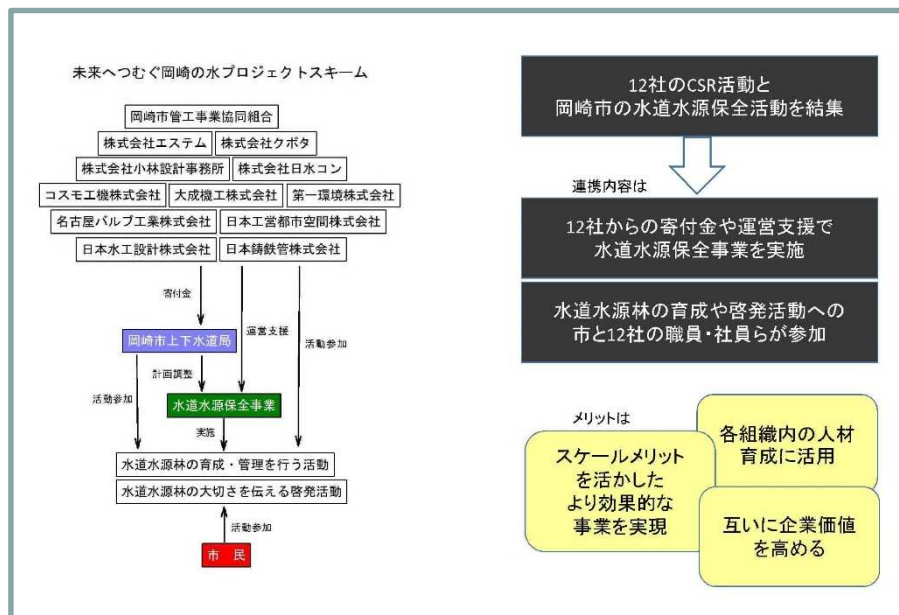
乙川源流清掃 11者 28名

活動場所を選定するための水道水源周辺調査 2回 計43名

水源保全活動のための安全講習 2回 計42名



## ■連携イメージ



## ■関連URL

<https://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1573/2040/p028863.html>

## ■担当部署

部署名: 岡崎市上下水道局 経営管理課企画調整係  
連絡先: 0564-23-7565 keieikanri@city.okazaki.lg.jp

# 宮城県の実施(ダムネーミングライツの導入)

宮城県では、厳しい財政状況から、歳出削減等を進め財政の健全化を図るとともに、全庁を挙げて歳入確保策に取り組んでいる。ダムという財産(資源)の有効活用とその環境の維持・向上を図るため、ダムネーミングライツ(ダムに愛称を命名する権利)を取得するスポンサー企業を募集している。

平成23年2月から募集を開始し、現在、2ダムでスポンサー企業と契約し、その収入は、ダムの管理経費に充当している。

## ■実施概要

- 対象施設: 宮城県が管理する11ダム
- ネーミングライツ料: 年間 30万円(税抜き)以上
- 契約期間: 原則3年以上  
(契約更新時には、優先交渉権を付与)
- スポンサー対象企業: 地域貢献や緑地保全等を支援するなどスポンサーとしてふさわしい企業等  
※宮城県広告等掲載基準、募集要項で規定
- 特典(スポンサーメリット):
  - (1)ダム入り口等への愛称を用いたダム名看板の掲出
  - (2)ダム堤体等への愛称等の表示
  - (3)周辺道路案内看板への愛称表示
  - (4)県のホームページやパンフレット等による愛称の表示
  - (5)スポンサーの希望する日のダム内一部の独占使用  
(年4回まで)

## ■導入後の看板等への愛称表示例

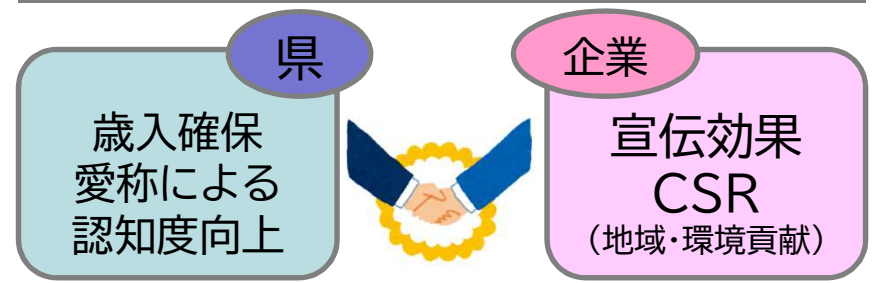


## ■関連URL

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kasen/su-naming-rights-boshuu.html>

## ■担当部署

部署名: 宮城県 土木部河川課  
連絡先: 022-211-3172 kasen-su@pref.miyagi.lg.jp



# 長野県根羽村の取組(愛知県安城市等と連携)

人口減少、集落の空洞化が進む根羽村の未来に、山に人の手が入らなくなり、山が崩れ、水源地が守れなくなる可能性が危惧されている。人の営みの原点である源流地域から伝統や文化が消滅し、川の流れが途切れ、営々と築かれてきた上流と下流のつながりが消えようとしている。日本の原風景である「ふるさと」が消えることは、まさしく国土の崩壊に直結するものである。こうしたことから、源流地である根羽村に人が住み続けられる環境を持続させるために、流域圏で支え合い・連携を推進している。

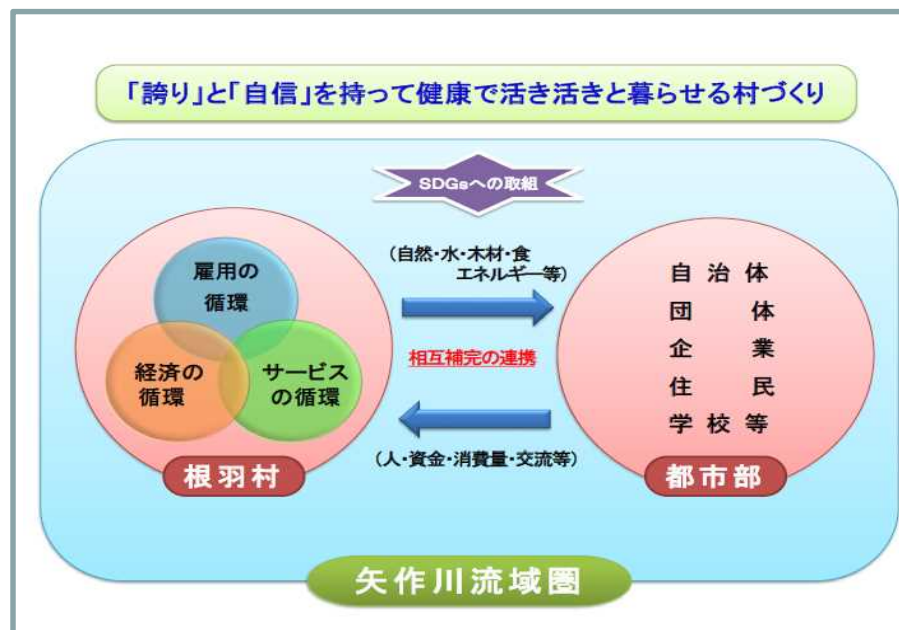
## 取組概要

### <矢作川流域間の連携>

- ・明治用水土地改良区(愛知県安城市)との連携  
「水を使う者は自ら水をつくれ」との理念のもと、大正3年に源流の根羽村に水源涵養林427haを購入し水源林を造成。森林づくり、環境教育などで交流を実施。
- ・「矢作川水源の森分収育林」を通じた安城市との連携  
矢作川源流の根羽村と、下流域の安城市が連携して森林整備を推進。平成3年から始まり、全国初の自治体間の「森林整備協定」を締結。令和4年から新たに「環境育林協定」を締結  
令和4年3月に満期を迎えた上記分収育林協定に代わり、水源地域の水資源涵養、森林資源の保護・育成・啓発を図るため、新たに「環境育林協定」を締結。
- ・安城市と連携した子供達の教育交流  
安城市内の小・中学生を対象に、源流でのライフスタイルや林業体験を通じた環境教育の連携を実施。
- ・企業との連携による森林づくり  
下流域のアイシングループ10社と「森林の里親制度」契約を締結し、森林づくりへの支援や、様々な交流連携による地域づくりを実施。



## 連携イメージ



## 関連URL

<https://www.nebamura.jp/nebainfo/karyuiki/>

## 担当部署

部署名: 根羽村役場 総務課  
連絡先: 0265-49-2111 soumu01@vill.neba.lg.jp

# 長野県木祖村の取組(木曾川下流域自治体との連携)

木曾川源流の里木祖村は、木曾川の水の繋がりを絆に愛知県や岐阜県内の多くの自治体と経済交流を育んでいる。友好自治体提携を結ぶ愛知県日進市とは令和4年度の提携30周年をきっかけに、将来を見据え若い世代に交流の象徴であるヒノキ製品に触れ合う事業を実施。また令和4年6月には愛知県名古屋市と森林整備協定を締結し、森林資源の循環を通じCO<sub>2</sub>削減や生物多様性、水循環の保全と地域の活性化を図り、共に発展することを目指しております。

## ■取組概要

### 《日進市との連携》

「平成日進の森林」分収造林事業  
32haの国有林にヒノキ約10万本を植林  
期間：1993年～2073年(80年間)  
分収割合：日進市7割、国3割



令和4年度(友好自治体提携30周年記念事業)  
・両市村小学1年生約1,000人に入学祝い品として木曾ヒノキ箸を贈呈。  
・両市村保育園へヒノキのおもちゃを贈呈(財源：森林環境譲与税)。

### 《名古屋市との連携》

「名古屋市・木祖村交流の森」整備協定 令和4年6月14日締結  
地域資源を活用し、都市と地方が補完し支えあう「地域循環共生圏(ローカルSDGs)」の形成をめざし、名古屋市の水源地の一つである木祖村と協定を締結し、森づくり事業、木材の利用促進事業を進める。

#### 1. 森づくり事業

名古屋市の森林環境譲与税を活用し、木祖村の村有林約3haの森林整備を実施。除間伐後は名古屋市民による植樹育樹活動を通じて、水源涵養や生物多様性等について学ぶ場を創出する。

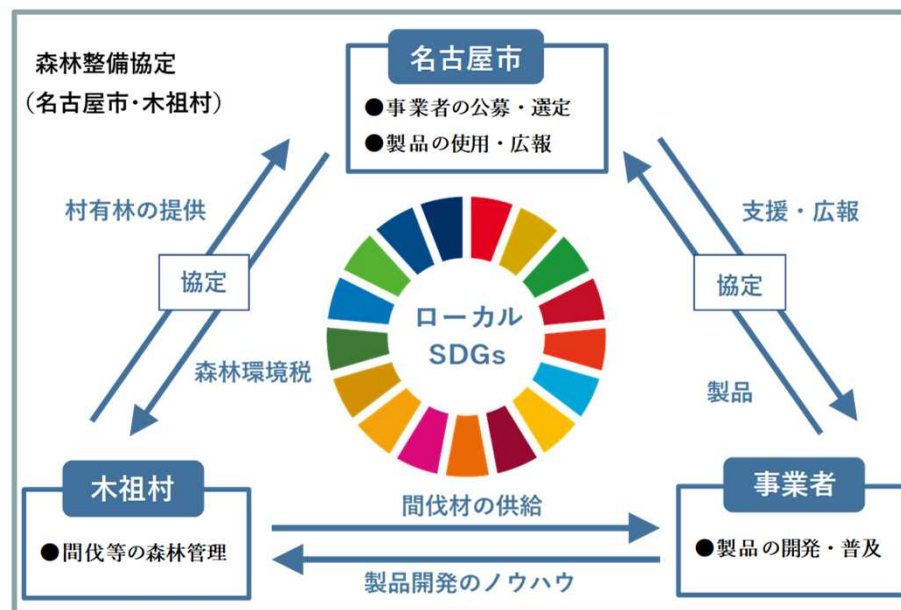
#### 2. 木材の利用促進事業

木工事業者等と連携し、森づくり事業で発生する間伐材を活用した製品開発等を通じて、環境問題に対する住民の意識向上を図るモデル事業を実施する。



\*上下流交流事業で培った多くの関係者の御協力により、平成20年に名古屋市内に木祖村アンテナショップが開設され、現在は木祖村観光協会にて特産品販売や観光案内業務等を運営している。

## ■連携イメージ



## ■関連URL

[http://www.vill.kiso.nagano.jp/kurashi\\_joho/shokogyo/](http://www.vill.kiso.nagano.jp/kurashi_joho/shokogyo/)

## ■担当部署

部署名：木祖村役場産業振興課  
連絡先：0264-36-2001 kouryu@kisomura.com

高知県土佐町には「四国の水がめ」早明浦ダムが立地しており、四国全体の水源地の役割を果たしてきた。特に渇水に悩まされてきた歴史を持つ香川県との繋がり深い。水源地では人口減少や高齢化が進行し、「山に手が入らない」状況となりつつあり、水源地における基幹産業の衰退と災害リスクの増大、利水域における用水の不安定化が同時進行するリスクがある。山林と水源の繋がりを定量的に評価するとともに、森林の多面的価値の最大化を図る中間支援組織(財団等)と、成果連動型の資金循環の仕組みを構築し、地域循環共生圏の実現を目指す。

## ■取組概要

### <水源と山林の定量的評価の仕組みづくり>

#### ・地域水循環の解析

大学発ベンチャーと連携し、早明浦ダム水系の各種データを統合した3次元数値シミュレーションモデルをコンピューター上に構築。水源域の土地利用状況の変化が水循環に与える影響を可視化した。

#### ・地域産業連関表の拡張

大学等と連携し、地域産業連関表の拡張に取り組んだ。地域経済の変化が、水源域・利水域双方において発揮される環境や自然資本の多面的サービスにどのように影響を与えるかを可視化を目指している。

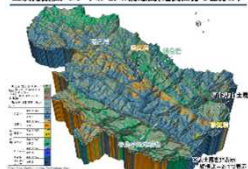
### <広域での連携及び資金循環の仕組みづくり>

#### ※内閣府広域連携SDGsモデル事業採択

・森林活用と山林の多面的価値発揮を同時実現する中間支援組織  
上記の可視化を踏まえるとともに、経済・社会・環境で受益者や影響する範囲が異なることに着目し、水源域における森林資源活用(基幹産業の振興)と、環境の多面的サービスの発揮を同時実現する中間支援組織の設立を目指す。また、これを運用する仕組みとして成果連動支払(PFS/SIB)の活用に取り組む。



三次元数値シミュレーションモデル構築図(地質区分で色分け)



## ■連携イメージ



## ■関連URL

<http://www.town.tosa.kochi.jp/publics/index/177/>

## ■担当部署

部署名: 土佐町役場 企画推進課 SDGs推進室  
連絡先: 0887-82-2450 tosat-21@town.tosa.lg.jp

福岡県北九州市は、8割を市外水源地から取水している。このような状況下で本事業は、水源地涵養林の荒廃や河川の水質汚濁を防ぐとともに、市民と水源地に住む人々との相互理解を深め、市民の水を育む意識の醸成を図ることを目的としている。具体的には、市外各水源地で行われる下草刈りや育植樹活動などに参加希望する市民ボランティアを募り、バスツアー形式で参加するものである。

## ■取組概要

### <水源地交流事業>

#### ・耶馬の森林育成事業への参加

耶馬溪ダムが所在する、大分県中津市耶馬溪町で行われている水源林保全の取り組みに平成12年度から参加。

#### ・遠賀川源流の森づくり事業への参加

遠賀川の源流にあたる、嘉麻市で行われている夏季の下草刈り事業と冬季の植樹事業に平成9年度から参加。

#### ・油木ダム周辺の環境整備活動への参加

油木ダムが所在する、添田町の地元住民が中心となって行うダム周辺の環境整備活動に水源地保全の一環として平成14年度から参加。



## ■連携イメージ

### ・耶馬の森林育成事業の事例

主催者:「耶馬の森林」育成協議会(中津市林業水産課内)  
※北九州市も協議会に参加。

内容:下草刈り、植樹(11月頃)

広報は、協議会会員自治体(9団体)がそれぞれ個別に実施

財源:負担金(会員自治体)

### ・遠賀川源流の森づくり事業の事例

主催者:遠賀川源流の森づくり推進会議(※任意団体)

内容:下草刈り(7月頃)、植樹(3月頃)

財源:助成金(福岡県森林(もり)づくり活動公募事業)

### ・油木ダム周辺の環境整備活動の事例

主催者:油木ダムを美しくする会(※任意団体)

内容:下草刈り(6、10月頃)、植樹(11月頃)

財源:参加費



※上記のいずれも、北九州市からの市民参加費用は北九州市上下水道局が単費でバス代等を支出。北九州市民への広報は、市政だより、HPで参加者を募り、バスツアー形式で参加。

## ■関連URL

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/suidou/s00101039.html>

## ■担当部署

部署名:北九州市上下水道局 浄水課

連絡先:093-582-3155 sui-jousui@city.kitakyushu.lg.jp



名古屋市は木曾三川流域の中でも下流に位置し、良質な水源水質と上中流域での森林の整備・保全の取り組みにより安心・安全でおいしい水道水を供給することができている。流域の水環境は、上中流域の人々の活動に大きく依存しており、これらの地域では過疎化や農林業の衰退など様々な課題を抱えている。将来にわたり水環境を守るため、流域全体が一体となって議論していくことが必要であり、本市が事務局となり平成23年に木曾三川流域自治体連携会議を設立した。現在では**45市町村等**が参加し、水環境保全に取り組んでいる。

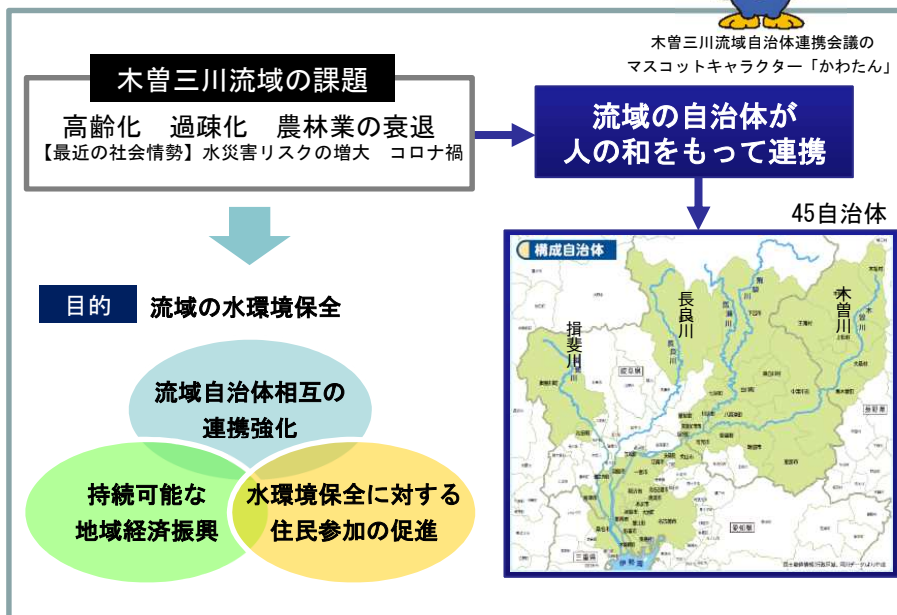


## ■取組概要

- ・木曾三川流域自治体サミット  
構成自治体の市町村長等が一堂に会し意見交換等を行う会議を開催。
- ・木曾三川流域自治体連携課長会議  
構成自治体の担当課長が、サミットなど各種事業の運営や連携手法等に関する検討、情報共有を行う会議を開催。
- ・木曾川(飛騨川)水系水処理ネットワーク会議  
木曾川上流部に一定規模以上の下水処理施設を持つ自治体と名古屋市で、下水処理に関する情報交換や技術交流を行う会議を開催。
- ・木曾三川マルシェ  
上中流域の農作物や特産品の販売をはじめとした自治体のPRを行うイベントを水道週間行事「なごや水フェスタ」などで開催。
- ・商談会  
上中流域の生産者と下流域の仕入れ企業との商談の場を提供する商談会を開催。
- ・木曾三川流域フォトコンテスト  
木曾三川流域内での写真を対象としたフォトコンテストを実施。
- ・木曾三川流域連携シンポジウム  
流域の住民向けイベントとして講演やパネルディスカッション等を行うシンポジウムを開催。



## ■連携イメージ



## ■関連URL

<https://www.water.city.nagoya.jp/kisosansen/index.html>

## ■担当部署

部署名:名古屋市上下水道局経営企画課  
連絡先:052-972-3615 keiei@jogesuido.city.nagoya.lg.jp

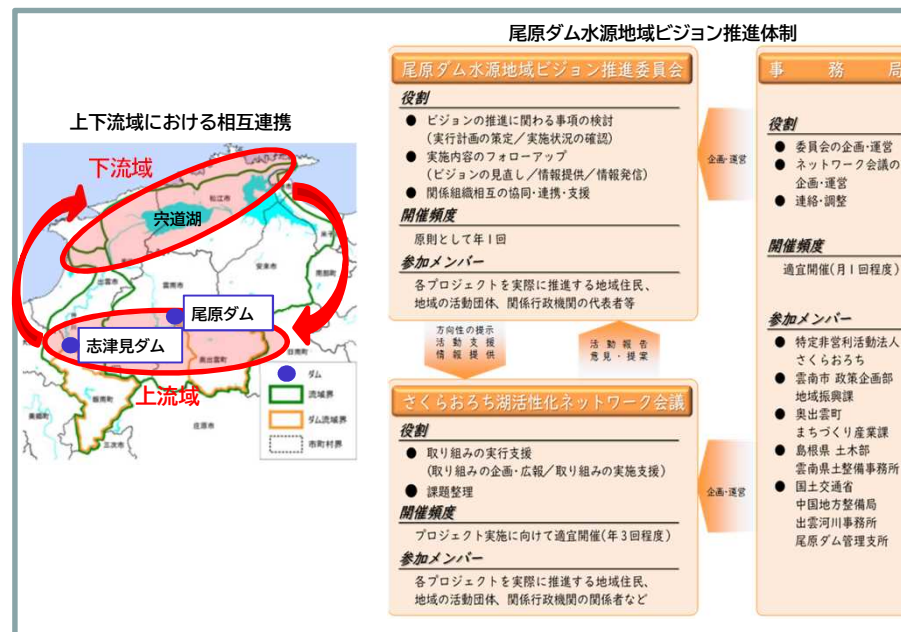
平成24年に竣工した尾原ダム・さくらおろち湖(ダム湖)は、湖面を周回可能で、ロケーションに優れ、周辺には牧場や温浴施設、道の駅などもあり、年間約14万人の来訪者がある。ここまでの発展には、尾原ダム水源地域ビジョン「つなげよう、育てよう、活かそう“さくらおろち湖”～みんなで、やら～や!～」(平成25年9月策定・令和5年2月改定)の実現に向けた、地域住民・活用団体・行政機関で構成される、尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会、さくらおろち湖活性化ネットワーク会議、合同事務局により、**多様な主体の連携体制**が重要な役割を担ってきた。

## ■取組概要

- 各種スポーツイベント…ボート競技、自転車競技、トライアスロン、トレイルランニング、ロゲイニング、ランニングバイク、ウォーキング等
- 多彩な魅力を誇る施設…ボート競技・自転車競技施設(島根県)、多根自然博物館、佐白温泉長者の湯、国民宿舎清嵐荘、ダムの見える牧場(牛)、さくらおろち牧場(馬)、道の駅おろちの里等。
- 多様な主体による連携…地域住民・活用団体・行政機関が各々主体として連携して取り組んでいる。尾原ダム水源地域ビジョンでは、国交省・島根県・雲南市・奥出雲町・NPO法人さくらおろちが、合同事務局を運営しており、月に1回程度事務局会議を開催し様々な検討を重ねている。
- 流域間連携…年2回開催の環境美化活動では、下流域の企業がCSR活動として等、例年300人以上の参加がある。ダム見学等周辺施設を利用した遠足や交流イベントなど上下流交流を継続実施中。
- 参加型環境保全活動…100年先も誇れる森づくりを目指し、植栽計画に基づき、除草や景観作物等の環境保全活動を参加型で実施。
- 周辺地域の活用促進…多彩な体験プログラム(さくらおろち湖魅力発見ツーリズム)、写真コンテストの開催(ビューポイントの創出・活用)、アウトドア利用等により周辺地域の魅力を発信している。



## ■連携イメージ



## ■関連URL

<https://www.city.unnan.shimane.jp/unnan/kurashi/machidukuri/dam/index.html>

## ■担当部署

部署名:雲南市 政策企画部 地域振興課  
連絡先:0854-40-1013

四万十川は昭和58年に日本最後の清流として一大ブームとなり、今や日本でも有数の知名度を誇る河川となっているが、当時は四万十川に関係する多数の組織が個々に活動していたり、流域の自治体(当時8市町村)がそれぞれ清流保全活動や各種対策の手続き等を行っていた。そのため、関係組織の統合や手続きの簡素化の必要性が高じ、四万十川を流域共通の財産として後世に引き継ぐため、流域市町村が一体となって協議、調整及び事業を行うことを目的とする「四万十川総合保全機構」を平成6年に設立した。

■取組概要

<設立当時の取組>

- ・四万十川ファンドの造成
- ・関係団体との活動整理
- ・四万十川クリーン大作戦
- ・清流四万十川パイロット事業の実施
- ・清流の森づくりキャンペーンとして植樹及び間伐の実施
- ・フォトCD、流域絵図作成
- ・水切り袋の配布
- ・沈下橋紹介冊子作成 等

<当時の課題>

- ・行政間での足並み(県も含む)や取組への温度差
- ・財源の確保
- ・四万十川対策が行政主導であり、住民主体となっていない

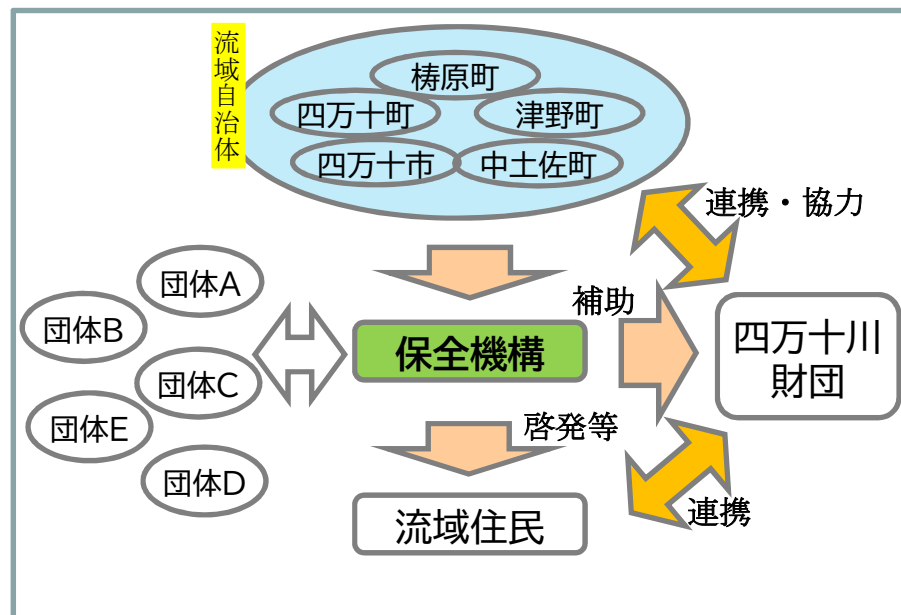
<これまでの取組>

- ・四万十川一斉清掃の実施呼びかけ
- ・農業濁水対策の啓発活動
- ・流域自治体が出捐する(公財)四万十川財団の設立と活動の補助
- ・流域観光振興連絡会との統合

<効果>

保全機構設立後約30年が経過し、当初の活動目的と現状に相違が生じているものの、(公財)四万十川財団を中心に各団体や流域住民と連携を図りながら各種取組を行っている。

■連携イメージ



■関連URL

<https://www.shimanto.or.jp/?p=8305>

■担当部署

部署名: 高知県四万十町役場企画課四万十川振興室  
 連絡先: 0880-22-3124 105010@town.shimanto.lg.jp



私たち四万十川財団は、高知県と四万十川流域5市町（四万十市、四万十町、中土佐町、津野町、梶原町）が共同で基本財産を出資して平成12年2月に設立されました。行政や民間団体と連携・協働し、四万十川の保全と地域の振興を目的とした活動をする公益財団法人です。

## ■取組概要



### 四万十川流域の文化的景観

Cultural Landscape of the Shimanto river basin

流域5市町が連携しての国の文化的景観の活用  
流域共通価値の設定

四万十川  
すみずみ  
ツーリズム

流域の農家民宿・体験施設が連携してのおもてなし  
事業者間の流域ネットワーク



流域100名を越すリバーボランティア委嘱



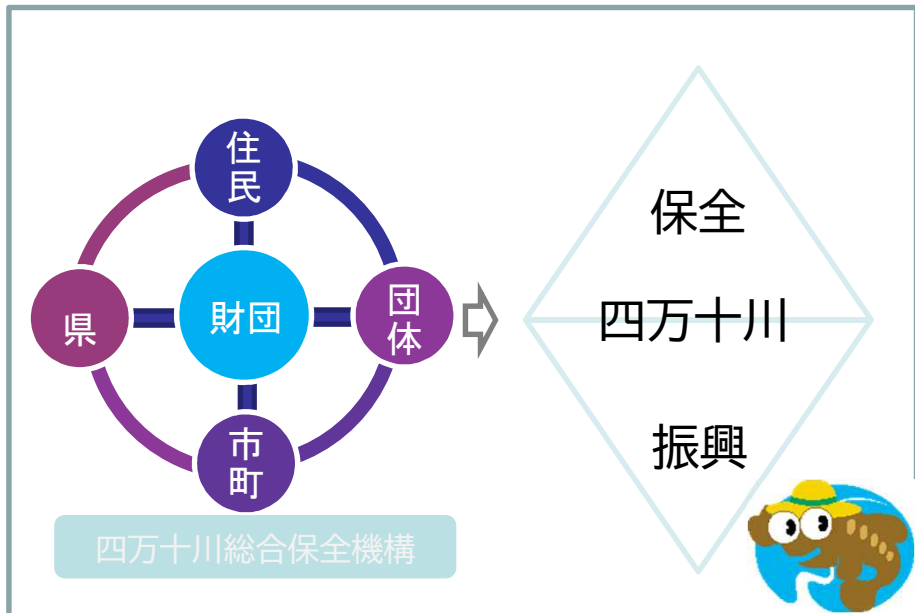
流域での自伐型林業の展開

上記事業などでできたネットワークを活用して、今現在四万十川の基礎データを収集し、データベースを作ろうとしています。今後、そのデータを共通言語として上流から下流まで連携した河川再生プログラムを創ろうとしています。



一昨年からは、四万十川の河床環境改善のための河原のアーマー化改善・砂利投入に向けた話し合いを関係諸機関と進めています。

## ■連携イメージ



## ■関連URL

<https://www.shimanto.or.jp/>

## ■担当部署

部署名: 公益財団法人 四万十川財団  
連絡先: 0880-29-0200 mail: office@shimanto.or.jp

# 奈良県川上村の取組

川上村は、川の最源流に位置することに着目し、“水源地の村づくり”に取り組んでいる。村の理想像として「川上宣言」を掲げ、都市とは違う価値の提供を続けている。源流の危機は国土の危機であることを強く意識し、できるだけ自然の近くに人の営みを維持させることは、国土の保全につながるとして、流域圏を中心にしながら、多様なキーパーソンと共に村づくりを展開している。

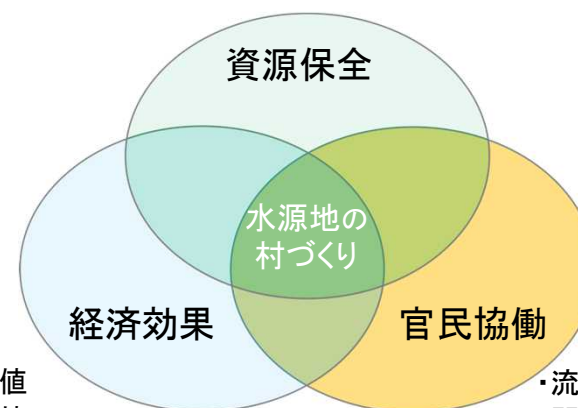
## ■取組概要

### <紀の川流域間の連携>

- ・最下流 和歌山県和歌山市との連携  
紀の川源流の川上村と、下流域の和歌山市において平成15年に「水源地保護に関する協定」を締結。森林再生を行う「和歌山市民の森づくり」や小学校同士の交流事業を展開。  
和歌山市議会においても、森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟を設立し、割箸の制作・配布等保全活動を展開している。
- ・流域ブランド「紀の川じるし」の展開  
川の恵みを実感してもらうため、第一次産業に着目し、上流域の林業、中流域の農業、下流域の漁業を紀の川じるしという名称でブランド化。流域を商店街と見立て、流域でのつながりを感じてもらおう。
- ・ESDの取組  
流域の小学校を中心に授業実践をお手伝い。  
川上村の地域資源を教材化し、「水のめぐみ」や「森林環境」に着目した授業づくりを支援。
- ・企業との連携による森林づくり  
ダム建設に伴う地滑りにより全戸移転となった集落跡地で植樹を通じた里山づくりを実施。様々な交流連携による地域づくりにつながる。
- ・関係人口の方々との連携  
義務教育学校の建設に伴いクラウドファンディングを実施しともに建設事業を進めていただく仲間を集めたり、オンラインコミュニティを運営することにより地域に自律的に関わる人材の確保・育成を進める。
- ・森林環境税の上下流連携  
吉野川分水の受益地の一つである田原本町と「森林整備に関する連携協定」を締結。田原本町の森林環境税を活用して川上村の森林整備並びに青少年教育事業を実施。

## ■連携イメージ

資源の保全を大前提として、様々なプレイヤーによる協働を進める。持続性担保の為、様々な価値づけを行う。



- ・金銭的価値
- ・心理的価値
- ・感情的価値 etc

- ・流域自治体
- ・関係企業・団体
- ・関係人口 etc

## ■関連URL

<https://www.vill.kawakami.nara.jp/source/>

## ■担当部署

部署名：川上村水源地課  
連絡先：suigenchi@vill.nara-kawakami.lg.jp

現在、260万人を超える人々が暮らす福岡都市圏は、大きな河川がなく、地理的に水資源に恵まれていないため、生活に欠かせない水道水の約3分の1を筑後川から取水している。

圏域の安定的な水道水の供給は、筑後川流域及び水源地域の住民の皆さまのご理解と協力によって保たれていることから、筑後川に感謝し、水を大切にすることを醸成するとともに、森林の保全や河川の清掃活動、水の学習等を通じて、福岡都市圏と筑後川流域及び水源地域の住民の皆さまと交流・連携し、相互理解を深めるための「流域連携基金事業」に取り組んでいる。

## ■取組概要

### ①交流推進事業

- 福岡都市圏と筑後川流域・水源地域の住民との文化・スポーツ等の交流・啓発イベントの実施

### ②森林保全支援事業

- 水源涵養機能の維持向上を図るため、間伐や造林作業等への参加・支援（水源ダム集水区域内の水源林整備に係る費用負担、水源地域での植樹活動等への参加等）

### ③環境対策支援事業

- 筑後川流域・水源地域で環境保全活動を行う団体への助成金交付
- 筑後川流域・水源地域での清掃活動への参加

### ④地域振興支援事業

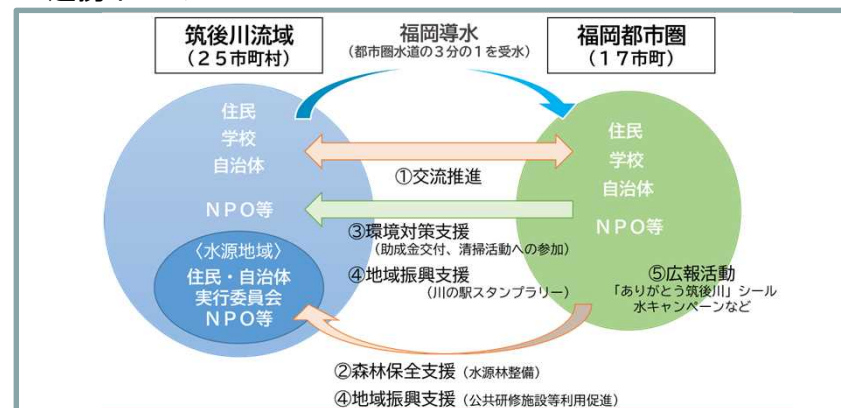
- 筑後川流域・水源地域の公共研修施設等の利用促進
- 筑後川流域・水源地域が主催するイベントへの参加・支援

### ⑤広報活動

- 筑後川流域・水源地域の相互理解のための広報（「水の週間」に実施する「水」キャンペーンで住民に周知等）



## ■連携イメージ



## ■財源

- 基金設立当時の筑後川からの年間受水量に、1㎡あたり1円で換算し、10年間基金積立を行った。
- 年間積立額の半分を事業費として支出（事業期間20年）

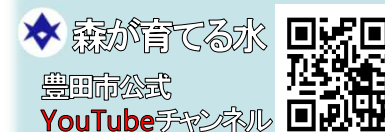
## ■関連URL

<https://www.fukuoka-tosiken.jp/fundbusiness/>

## ■担当部署

- 部署名①：福岡都市圏広域行政推進協議会  
 （事務局：福岡市総務企画局水資源対策担当）  
 連絡先①：092-711-4972 mizushigen.GAPB@city.fukuoka.lg.jp  
 部署名②：福岡都市圏広域行政事業組合  
 連絡先②：092-733-5004 fukuokatoshiken@nifty.com

豊田市では、水道使用量1立方メートル(1トン)あたり1円を「水道水源保全基金」として平成6年4月から積み立てています。この基金は、水源かん養事業や水質保全の環境整備を進め、安全でおいしい水道水を供給していくために、全国に先駆けて設けられたものです。



この動画は、「水源の森」の様子や、水道水源保全事業をわかりやすく紹介しています。ぜひご覧ください。



豊田市水道キャラクター「びっちゃん」

## ■取組概要

豊田市水道水源保全基金を原資として、全5事業を展開し、水道水源の積極的かつ恒久的な保全に取り組んでいます。

### ①水質保全対策事業

水道水源地域（各水源の取水口より上流にある地域）において、通常の合併処理浄化槽設置費補助制度に定額の上乗せ補助を行い、合併処理浄化槽への転換促進を図っています。

### ②水源の森事業

矢作川上流域の旭高原元気村に隣接する22haを取得し、間伐を行い水道水源林として保全しています。市民に対し、水源保全の重要性をPRするシンボリックな役割を果たす「水源の森」を整備しています。

### ③水道水源林間伐事業

水道水源地域において、切置き間伐へ補助金を支給することで、健全な人工林に誘導し、水源かん養機能の増進、水資源の確保(水量・水質)に取り組んでいます。(対象区域:足助、下山、旭、稲武、小原地区)

### ④水道水源林確保事業

豊田市の水がめである「矢作ダム」を守り、安全で安定した水を永続的に市民に届けるため、矢作ダム周辺左岸を特に重要なエリア(300ha)に指定し、間伐による水道水源林の整備を進めています。

### ⑤水道水源林モニタリング事業

間伐の実施効果を検証するため、市有林で、各流域の流量、土砂流出量、水質の特性などの観測を行い、湧水や水質対策に向けた効果的な間伐施業法を検討しています。

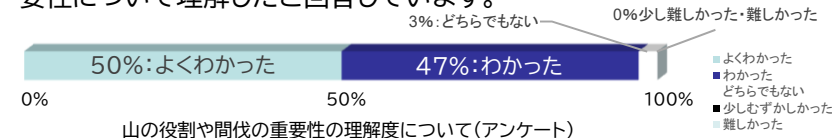
## ■連携イメージ

### TOPIC!【水源の森事業】

将来を担う水源地域の中学生を対象に、専門家から森林の役割や間伐の効果などを実際に「見て」「聞いて」「体験」することで、水源林の役割や間伐の重要性を理解するとともに、水源林への興味や関心を高めることを目的として「水源の森探検隊」を開催しています。



受講後のアンケートでは、約97%の生徒が、水源林の役割や間伐の重要性について理解したと回答しています。



## ■関連URL

<https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/jyogesuidou/torikumi/1003587.html>

## ■担当部署

部署名:豊田市上下水道局 総務課  
連絡先:(0565)34-6653 メール:jyougesuisoumu@city.toyota.aichi.jp